

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード		
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データ科学実践(第3～5回)」 ・ベクトルの演算、内積「データ科学実践(第2回)」 ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「データ科学実践(第4～5回)」 ・確率分布、正規分布「データ科学実践(第3～5回)」 	
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現「データ科学実践(第7～8回)」 ・並び替え(ソート)「データ科学実践(第8回)」 	
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データ科学実践(第2回)」 ・構造化データ、非構造化データ「データ科学実践(第6回)」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「データ科学実践(第2回)」 	
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数点型「データ科学実践(第7～8回、第13回)」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「データ科学実践(第7～8回、第13回)」 ・オブジェクト指向プログラミング「データ科学実践(第8回、第13回)」 	
	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0「データ科学実践(第1回)」 ・データサイエンス活用事例「データ科学実践(第1回)」 	
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ科学実践(第1回)」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データ科学実践(第14回)」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データ科学実践(第14回)」 ・データの収集、加工「データ科学実践(第13～14回)」 	
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データ科学実践(第6回)」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データ科学実践(第6回)」 ・ビッグデータ活用事例「データ科学実践(第6回)」 	
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索、エキスパートシステム「データ科学実践(第1回)」 ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「データ科学実践(第1回)」 	
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理「データ科学実践(第1回、第11回)」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データ科学実践(第11回)」 	
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データ科学実践(第9回)」 ・学習データと検証データ「データ科学実践(第9回)」 ・ホールドアウト法、交差検証法「データ科学実践(第9回)」 	
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークの原理「データ科学実践(第10回)」 ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「データ科学実践(第10回)」 ・転移学習「データ科学実践(第10回)」 	
	3-5	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「データ科学実践(第11回)」 ・生成AIの留意事項「データ科学実践(第11回)」 ・プロンプトエンジニアリング「データ科学実践(第11回)」 ・ファインチューニング「データ科学実践(第11回)」 	
	3-10	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価、再学習「データ科学実践(第12回)」 ・AIの開発環境と実行環境「データ科学実践(第12回)」 ・AIの社会実装「データ科学実践(第12回)」 	
	(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集、加工「データ科学実践(第13～14回)」 ・並び替え(ソート)「データ科学実践(第8回、第13回)」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「データ科学実践(第7～8回、第13回)」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データ科学実践(第14回)」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データ科学実践(第14回)」
		II	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ科学実践(第14回)」 ・プロンプトエンジニアリング「データ科学実践(第11回、第13～14回)」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データ科学実践(第14回)」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データ科学実践(第14回)」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データリブ思考をもとに最適な意思決定ができる ・生成AIを使ったデータ分析やプログラミングができる ・実社会の課題に対し、協働的に取り組むことができる
--

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数 合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
経営情報学科	105	82	110	220	50	48											50	23%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	105	82	110	220	50	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	23%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	35	人
(非常勤)	28	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	春名 亮
(役職名)	数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会
------	----------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会規程
------	------------------------------

⑥ 体制の目的

富山短期大学教授会規程第6条の規定に基づき、全学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項について協議するため、推進委員会(以下「委員会」という。)を置き、その運営方法等を規定することを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

- ・委員長:春名 亮(経営情報学科・准教授)
- ・総合学務センター長:石動 瑞代(幼児教育学科・教授)
- ・情報センター長:小西 孝史(経営情報学科・教授)
- ・各学科教員:川口 将史(食物栄養学科・准教授)
- 嶋野 珠生(幼児教育学科・教授)
- 吉牟田 裕(健康福祉学科・准教授)
- ・総合学務センター(学務課長教務担当):山田 太郎

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	23%
令和8年度予定	24%
令和9年度予定	25%
令和10年度予定	26%
令和11年度予定	27%

具体的な計画

令和8年度:本プログラムで学生が得る具体的な学修成果とキャリアにおける高い有用性を明確に示し、主たる対象学生の履修意欲を強力に喚起する。
 令和9年度:前年度の施策を継続しつつ、対象外学科の学生に対してもプログラムの意義や利点を具体的に示し、履修を推奨する積極的な取り組みを強化する。
 令和10年度:前年度の施策を継続し、学生の意見やプログラム修了者の声を反映した広報活動を重点的に展開し、プログラムの魅力を高める。
 令和11年度:これまでの施策を定着・洗練させ、継続的なプログラム改善と多様な学生層へのアプローチを行うことで、持続的な履修率向上を確実なものとする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「富山短期大学授業科目の履修に関する規程」第17条(他学科又は専攻科の授業科目の履修)「学生は、その属する学科又は専攻科以外の教育課程に定めるところにより、履修することができる。」(「学生のしおり」p.118)に基づき、経営情報学科以外で希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制を確保している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学のポータルサイト(<https://sites.google.com/tii.ac.jp/tomitanportal/>)で周知する。ただし、ポータルサイトは本学の学生であれば利用できるものである。また、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムのウェブページ(<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/tc-mdash.html>)でも本プログラムの内容を公開し、履修を検討する学生への情報提供を行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

GoogleClassroomを利用し、講義の録画データを閲覧可能とすることで、復習したい学生や欠席した学生も学べるようにサポートする。特に「数学基礎」については、高校数学の教育課程の差異などを考慮し、補足資料などを作成して基礎から分かり易く学べるようにする。また、発展的な内容に取り組もうとする学生(編入学希望者など)にも対応し、生成AI/パスポート試験などの資格対策を講じることで、多くの学生が履修できる体制を整える。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

1. 対面での対応: 授業前後、またはオフィスアワーに随時質問を受け付ける
2. ウェブシラバス(毎回の授業アンケート)での対応
ウェブシラバスの授業アンケート等で質問があれば、内容に応じて以下の通り対応する。
(1) 個別の対応が必要な場合
メール等で個別に回答し、場合によっては対面に対応
(2) 全体で共有すべき場合
提出課題などに関する質問は、次回の授業で全体に共有し回答する(緊急を要する場合は、GoogleClassroomかウェブシラバスなどでも回答を資料として配付することもあり得る)

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会

(責任者名) 春名 亮
(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	今年度の開始時点で経営情報学科2年生は105名在籍していて、50名が本プログラムを履修した。8月末の追再試の成績評価が終了した時点で、48名がプログラムの単位を修得した。
学修成果	本プログラムは経営情報学科の専門科目に関連し、アンケートの間4の(2)「授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。」かどうかを評価する設問で、「大いに役立った」の回答率が他の設問と比較して最も高かったことから、十分な学修成果が得られたと考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業アンケートの間3「この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についてどの程度理解できましたか。」において、(4)で授業の内容に関する理解度を問う項目があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」を合わせた回答率が90.2%だったので、多くの学生が理解できていると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	総合評価値は学生の満足度を表す指標でもあったと考えられ、その値は3.53であった(総合評価値の上限は4.0)。「大変良かった」および「良かった」を合わせた回答率が91.5%であり、上記に示した「大変良く理解できた」および「よく理解できた」と同様の傾向がみられ、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」の満足度が高くなったと考えられるので、後輩等他の学生への推奨度は高くなることが期待される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	他学科でリテラシーレベルをさらに向上したいと考える学生のためにも、本プログラムは他学科の希望者も受けられるような体制の構築を検討することで、履修率の向上を考えて本プログラムを運用することを課題とする。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>MDASH応用基礎レベル対応の教育プログラムは今年度から経営情報学科で開始したので、本プログラム修了者が地域のそれぞれの民間組織(企業、自治体、団体等)で本プログラムの知識や技術を活用することが期待され、今後は学生が就職した組織の意見も聞きながら、本プログラムの改善を検討する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学は「一般社団法人富山県経営者協会IT・インフラ部会」に加入していて、その意見交換会などが年2回開催されている。令和7年度も「生成AIの利用」に関する議論を部会で行い、その際に参加している企業に本学の取り組みを説明し、それに対する以下の貴重なご意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理・データサイエンス・AI教育の応用基礎レベルは理工系の大学生が学ぶ内容が盛り込まれているが、それを短期大学の文系学生でも基礎から分かり易く学べるような優れた工夫があり、非常に素晴らしいプログラムである ・実践的なビジネス課題への取り組みを行う時間も確保されており、地域社会の発展に寄与する極めて優れたプログラムである
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問が問2に9個あり、「体験的な学習(実習、実験、フィールドワーク等)の機会があった」に注目すると、「大いにあった」「いくらかあった」を合わせた回答率が83%であり、多くの学生が満足できていたと考えられることから、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させている授業であったと考えられる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問は学修成果を高めるためにどのような工夫がなされていたかどうかを9問の回答状況で把握することができ、教材の工夫が最も高かったことから内容・水準が適切であったと判断し、「分かりやすい」授業であったと考えられる。</p>

授業科目名	データ科学実践			科目コード	M171-12				
科目区分	専門科目 - 情報科目 - 情報理論		担当教員名	春名 亮					
実務経験									
開講時期	2年前期		授業の方法	講義					
必修・選択	選択		単位数	2単位					
前提科目(知識)	人間と情報 デジタル技術概論 情報データ科学 高校の数学 (二次関数, データの分析, 集合と命		後継科目						
関連科目	プログラミング基礎論(1年次後期)、ウェブデザイン演習 (1年次後期)								
資格等 取得との関連	MDASH応用基礎レベル(予定) 令和7年の秋に申請し、認定されれば令和8年3月以降に修了証を配付します。 生成AIパスポート試験								
授業の概要	1年次のデータ科学系の講義で学んだ知識をさらに深めるべく、AI関連の資格試験などを意識して四年制大学に相当する実践的かつ高度な専門知識を学び、MDASHの応用基礎レベルを意識して実践的かつ高度な専門知識が学べる講義を行う。								
学習目標	本講義で学んだ知識をAI関連の資格試験などへ活かすことを意識させ、デジタル人材に要求される「データドリブン思考力」を高める。								
キーワード	数理・データサイエンス・AIプログラム(MDASH)、DX、データドリブン思考、機械学習、深層学習、生成AI								
テキスト・ 参考書等	【使用教科書】なし 【参考書】竹村彰通(編):「データサイエンス応用基礎」(学術図書出版社)								
学修成果	学生が獲得するべき具体的な成果								
LO-1	データサイエンスやAIに関する実践的な知識を理解している								
LO-2	生成AIやExcelなどのツールを活用し、成果を生み出す技能を習得している								
LO-3	データサイエンスやAIによる実践的な分析を行う思考やその結果に対する判断ができる								
LO-4	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに対して積極的に取り組むことができる								
LO-5									
評価方法 / LO (学修成果)	筆記試験		提出課題		成果発表	その他			合計
	定期試験	小テスト	レポート	作品		A	B	C	
総合評価(割合)	40	20	30			10			100
LO-1	40	10	10						60
LO-2			10			10			20
LO-3			10						10
LO-4		10							10
LO-5									
備考	令和7年度から開講される科目である。 第1回, 第12回, 第15回以外は適宜パソコンを使った実習(アクティブラーニング)により、データサイエンスやAIの実践的かつ高度な専門知識を学ぶ。								

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	イントロダクション(1年次の復習も含む) : データ駆動型社会、分析設計、AIの歴史・社会への応用など	
	【予習】関連する1年次の講義内容を復習しておくこと。	90分
	【復習】AIの応用分野をさらに詳しく積極的に調べてみる。	90分
第2回	データ表現(基数変換、配列によるデータ表現、ベクトルによるデータ表現など) 「情報データ科学」の復習を兼ねる	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】講義資料を見て、今回の実習作業をできるようになること。	90分
第3回	データサイエンス基礎(1) : 計数値の分布(二項分布など) 講義中に利用するデータ	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】講義資料を見て、今回の実習作業をできるようになること。	90分
第4回	データサイエンス基礎(2) : 計量値の分布(一様分布) 講義中に利用するデータ1 / 講義中に利用するデータ2	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。 ヒストグラム作成は「人間と情報」で使ったテキストp.129~p.134を読んでおくこと。	90分
	【復習】講義資料を見て、今回の実習作業をできるようになること。 講義中の提出演習課題 / Excel課題データ(課題の内容)	90分
第5回	データサイエンス基礎(3) : 計量値の分布(正規分布) / 仮説検定(主に高校レベル) 講義中に利用するデータ	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】講義資料を見て、検定方法を十分に理解し今回の実習作業をできるようになること。	90分
第6回	データサイエンス基礎(4) : 比率の仮説検定 実践的なデータ処理技術の基礎(1) : ビッグデータの収集・蓄積・活用 講義資料	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】ビッグデータの応用分野をさらに詳しく積極的に調べてみること。 講義中の提出演習課題 / Excel課題データ(課題の内容) 課題用のExcelファイルは5月29日までに、問題2だけ解いて右の4へ提出すること(ファイル名は変更不要)	90分
第7回	実践的なデータ処理技術の基礎(2) : アルゴリズムとプログラミングの基礎	
	【予習】プログラミング基礎論や情報データ科学のソフトウェアの部分を復習しておくこと。	90分
	【復習】HTMLの基礎を十分に理解すること。	90分
第8回	実践的なデータ処理技術の基礎(3) : JavaScriptによるプログラミング	
	【予習】ウェブデザイン演習 を十分に復習しておくこと。	90分
	【復習】6月12日までにJavaScriptの課題を右の4へ提出すること。	90分
第9回	AIの基礎と展望(1) : 機械学習の基礎と展望(教師あり学習、教師なし学習、強化学習など)	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】3つの学習方法を十分に理解しておくこと。	90分
第10回	AIの基礎と展望(2) : 深層学習の基礎と展望	
	【予習】講義資料に関連する1年次の講義を復習し、講義資料の内容を把握すること。	90分
	【復習】畳み込みニューラルネットワークや再帰型ニューラルネットワークを十分に理解すること。	90分

第11回	AIの基礎と展望(3)：生成AIの基礎と展望(RAG(検索拡張生成)の仕組み、生成AIのビジネス展開など) 講義中に使うデータ	
	【予習】「人間と情報」の第8回の内容を復習しておくこと。	90分
	【復習】生成AIを利用して、第8回の内容に関するプログラミングを考えてみる。	90分
第12回	AIの構築と運用	
	【予習】講義資料を読んで概要を理解しておくこと。	90分
	【復習】AIの開発プロセスを十分に理解できるようになること。	90分
第13回	AI・データサイエンス実践(1)：AI・データサイエンス基礎に関する総合演習 データ・AI活用の企画・実施・評価（分析に生成AIを活用し、平均の有意差を検定） 講義中に使うファイル(北陸のドラッグストアデータ)/Gemini用	
	【予習】第5回・第11回の内容をよく復習しておくこと。	90分
	【復習】今回の作業内容を十分に理解し、提出課題に取り組んでみる（提出先：右側の4へ）	90分
第14回	AI・データサイエンス実践(2)：データ表現とアルゴリズムの内容に関する総合演習 ・JavaScriptを用いたアンケートフォーム作成によるデータ収集 ・生成AIの活用とプログラミング	
	【予習】第7回・第8回の内容を復習しておくこと。	90分
	【復習】時間内にできなかった課題に取り組んでみる。	90分
第15回	本講義の概括：試験対策・前期授業アンケート回答（レポート提出日：7月31日の試験日） 印刷物によるレポート提出について ・左上を必ずホッチキスなどで止めること（両面印刷でもOKで、その場合はホッチキスなどを使わなくてよい）	
	【予習】第1回～第12回までの内容を整理しておくこと。	90分
	【復習】試験に備えて総復習をすること。	90分

学修成果別評価基準(ルーブリック)

5段階評価基準	S	A	B	C	F
LO-1	データサイエンスやAIに関する極めて高度な実践的知識を深く理解し、応用力に優れている。	データサイエンスやAIに関する高度な実践的知識を深く理解し、十分な応用力がある。	データサイエンスやAIに関する実践的知識を概ね理解しており、基本的な応用力がある。	データサイエンスやAIに関する実践的知識の重要な部分について最低限の理解がある。	データサイエンスやAIに関する実践的知識の理解が不十分
LO-2	生成AIやExcelなどのツールを独創的かつ高度に活用し、期待以上の成果を生み出すことができる。	生成AIやExcelなどのツールを高度に活用し、十分な成果を生み出すことができる。	生成AIやExcelなどのツールを適切に活用し、一定の成果を生み出すことができる。	生成AIやExcelなどのツールを少しは活用し、最低限の成果を生み出すことができる。	生成AIやExcelなどのツールをほぼ活用しない、または成果を全く生み出すことができない。
LO-3	データサイエンスやAIを活用した実践的な分析を極めて高度に行い、その結果に対し極めて的確な判断ができる。	データサイエンスやAIを活用した実践的な分析を高度に行い、その結果に対する確かな判断ができる。	データサイエンスやAIを活用した実践的な分析を適度に行い、その結果に対し適切な判断ができる。	データサイエンスやAIを活用した実践的な分析を少しでも行い、その結果に対し基本的な判断ができる。	データサイエンスやAIを活用した実践的な分析を行う思考力やその結果に対する判断力が不十分
LO-4	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに極めて積極的に、主体的かつ意欲的に取り組んでいる。	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに非常に積極的に、常に自発的かつ意欲的に学習に取り組んでいる。	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに概ね積極的に、与えられた課題や学習に意欲的に取り組んでいる。	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに少しは積極的に、最低限の課題や学習には一応取り組んでいる。	データサイエンスやAIの実践的な知識を学ぶことに消極的
LO-5					

経営情報学科教育課程

(令和6年度入学生に適用)

区分	授業科目	講義 演習 実習の別	単位数		担当教員名 ()内は 非常勤講師	毎週授業時間数								資格 ※図書 館司書	備 考				
			必 修	選 択		1 学年				2 学年									
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期						
教 養 科 目	現代社会と人間Ⅰ	講	1		担当教員		1												
	現代社会と人間Ⅱ	講	1		担当教員														
	図書館概論	講		2	東野		2											●	
	ITリテラシー	演	1		小西	2													
	人間と情報	講	2		春名	2													
	日本語表現	講		2	(奥野)		2												
	生涯学習概論	講		2	東野・(井坂)・ (数家)・(篠田)													●	
	生涯スポーツ	演		2	小 椋					2									
	小 計		3	10			4	5	0	2	0	0	0	0	2				
	外 国 語 科 目	総合英語Ⅰ	演	1		山西	2		2										※ 総合英語 総合英語Ⅰ、同Ⅱは指定グル ープ別に各1単位ずつ取得する。
		総合英語Ⅱ	演	1		(ホズリー)													
		英語リーディング特講Ⅰ	演		1	山西		2											※ 集中講義(海外研修に行く)
		英語リーディング特講Ⅱ	演		1	山西			2										
		海外研修 キャンパス&ホームステイプログラム	演		2	山西						2							
		小 計		2	6			2	2	2	2	0	2	0	0	0			
		教養演習Ⅰ	演	1		全専任教員	2												
	教養演習Ⅱ	演	1		全専任教員			2											
	大学教育と学修	講	2		全専任教員	2													
教養科目計		9	16			10	7	4	4	0	2	0	0	2					
専 門 科 目	経済学の基礎	講	2		藤野	2												※ 集中講義 (四年制大学への編入学希望者 が履修すること)	
	日本経済論	講		2	(小平)				2										
	金融論	講		2	倉田						2								
	国際経済論	講		2	倉田										2				
	経営学の基礎	講	2		山下	2													
	現代企業と社会	講		2	山下				2										
	人的資源管理論	講		2	山下						2								
	経営管理論	講		2	山下										2				
	経済・経営学特講	演		2	山下		2												
	経済学特講	演		2	(井坂)					2									
	経営学特講	演		2	山下							2							
	図書館制度・経営論	講		2	東野							2							●
小 計		4	20			4	2	0	6	0	8	0	0	4					
会 計 科 目	会計学Ⅰ	講	2		藤野	2												※ 原価計算・原価計算演習・ 財務会計・財務会計演習につい ては、 P.48〔1年次単位認定者が履修 できる2年次担当の会計関連科 目〕も参照のこと。 ※ 集中講義	
	会計学Ⅱ	講		2	藤野				2										
	簿記論	講		2	藤野	2													
	簿記演習	演		2	藤野					2									
	連結会計演習	演		2	(山田 誠)						2								
	原価計算	講		2	(飯野)										2				
	原価計算演習	演		2	(飯野)										2				
	財務会計	講		2	(飯野)						2								
	財務会計演習	演		2	(飯野)						2								
	管理会計	講		2	春名										2				
会計学特講	演		2	(藤野)							2								
小 計		4	18			4	0	0	4	0	8	0	0	6					

区分	授 業 科 目	講義 演習 実習 の別	単位数		担当教員 名() 内は非常 勤講師	毎週授業時間数								資格 ※図書 館司書	備 考	
			必 修	選 択		1 学年				2 学年						
						前期		後期		前期		後期				
						必	選	必	選	必	選	必	選			
ビジネス実務・キャリア科目	ビジネス実務演習Ⅰ	演	1		森井泉	2									※ 図書館司書 別途定める図書館司書課程の科目(24単位) の履修および単位取得を要する。	
	ビジネス実務演習Ⅱ	演	1		森井泉			2								
	ビジネス実務演習Ⅲ	演		2	森井泉					2						
	ビジネス実務活用演習	演	1		森井泉						2					
	ビジネス英語Ⅰ	演		1	山西					2						
	ビジネス英語Ⅱ	演		1	山西								2			
	キャリア・デザイン講座	演	2		高木	2										
	キャリア形成支援講座	演	2		高木			2								
	秘書実務演習Ⅰ	演		1	高木					2						
	秘書実務演習Ⅱ	演		1	高木								2			
	インターンシップA	演		2	森井泉・高木				2							※ インターンシップA, B, C 企業等の実習に参加する。
	インターンシップB	演		2	森井泉・東野				2							
	インターンシップC	演		4	森井泉・高木				4							
小 計		7	14			4	0	4	8	0	6	2	4			
専門科目 情報科目	デジタル技術概論	講	2		春 名	2									● ●	
	データ科学実践	講	2		春 名					2						
	情報データ科学	講	2		春 名				2							
	情報システム論	講	2		小 西								2			
	図書館情報技術論	講	2		東野・春名				2							
	情報サービス論	講	2		東 野					2						
	文書作成演習Ⅰ	演	2		(太 田)	2										
	文書作成演習Ⅱ	演	2		(太 田)				2							
	文書作成演習Ⅲ	演	2		(太 田)					2						
	データ活用演習Ⅰ	演	2		田 中		2									
	データ活用演習Ⅱ	演	2		田 中				2							
	データ分析演習	演	2		田 中					2						
	ビジネスデータ活用演習	演	1		田 中							2				
	データベース基礎演習	演		2	田 中								2			
	プログラミング基礎論	講	2		小 西				2							
	プログラミング演習Ⅰ	演		2	小 西					2						
	プログラミング演習Ⅱ	演		2	小 西								2			
	ウェブデザイン演習Ⅰ	演		2	春 名				2							
	ウェブデザイン演習Ⅱ	演		2	小 西						2					
小 計		3	34			2	4	0	12	0	12	2	6			
専 門 演 習 Ⅰ	演	1		全専任教員						2						
専 門 演 習 Ⅱ	演	1		全専任教員							2					
大学教育と実践Ⅰ	演		2	全専任教員				2								
大学教育と実践Ⅱ	演		2	全専任教員								2				
専 門 科 目 計		20	90			14	6	4	30	2	34	6	20			
総 計		29	106			24	13	8	34	2	36	6	22			

富山短期大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進委員会規程

(設置目的)

第1条 富山短期大学教授会規程第6条第1項の規定に基づき、全学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関する事項について協議するため、推進委員会（以下「委員会」という。）を置き、その運営方法等を規定することを目的とする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項で全学科にまたがる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「プログラム」という。）の学修内容について
- (2) プログラムの授業科目構成及び修了要件について
- (3) プログラムの改善について
- (4) 国が推進するプログラムの認定制度に関することについて
- (5) その他プログラムに関する事項について

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 総合学務センター長
- (2) 情報センター長
- (3) 各学科の教育職員各1名
- (4) 学務課長（教務担当）
- (5) 総合学務センター長が必要と認める教職員 若干名

(任期)

第4条 前条第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員長は、委員の互選により選任する。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。
- 3 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めて、意見を聴くことができる。
- 5 会議で審議した内容については、総合学務センター委員会、教授会及び運営会議において審議し、了承を得るものとする。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学務課において処理する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

富山短期大学自己点検・評価等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、富山短期大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動及び管理運営等の状況について、自ら行う点検・評価、外部評価並びに相互評価及び認証評価機関による第三者評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(自己点検・評価委員会)

第2条 本学に次の各号に掲げる事項について点検・評価を行うとともに、これを審議するため、富山短期大学自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 本学の教育理念及び目標等に関する事
- (2) 本学の将来構想に関する事
- (3) 学生の選抜方法に関する事
- (4) 学生の学園生活に関する事
- (5) 教育活動に関する事
- (6) 研究活動等に関する事
- (7) 教員組織に関する事
- (8) 事務組織に関する事
- (9) 国際交流に関する事
- (10) 地域社会への貢献に関する事
- (11) 管理運営・財政に関する事
- (12) 施設整備に関する事
- (13) 自己点検・評価体制に関する事
- (14) 外部評価並びに相互評価に係る企画・立案、実施及びその結果の公表に関する事
- (15) 第三者評価への対応及びその結果の公表に関する事
- (16) その他委員会が必要と認める事項

2 前項各号に掲げる事項に係る具体的な点検・評価項目は、委員会が別に定める。

(委員会組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各部長
- (4) 附属図書館長
- (5) 各学科及び専攻科（以下「科」という。）長
- (6) 各センター長
- (7) 各課長
- (8) その他学長の指名する者

(委員任期)

第4条 前条第6号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、学長をもって充てる。
- 3 委員会に委員長が指名する副委員長を置くことができる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(自己点検・評価結果の対応等)

第6条 委員会は、自己点検・評価の結果を年次報告書(以下「報告書」という。)に取りまとめ、公表する。

2 学長は、委員会が行った自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、その改善に努める。

3 学長は本学が設置する各種委員会(以下「各種委員会」という。)において、改善策を検討することが適当と認められるものについては、当該委員会に付託する。

4 学長は、自己点検・評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、当該科長にその改善の検討を求めることができる。

第7条 外部評価並びに相互評価は、本学の自己点検・評価の一環として、学外者によって本学が行った点検及び評価に係わる報告書等に基づき、本学全体の評価及び検証を行う。

2 外部評価並びに相互評価の実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

3 委員会は、外部評価並びに相互評価の結果を公表する。

(第三者評価及び結果の対応等)

第8条 第三者評価を受けるにあたっては、認証評価機関の第三者評価実施要項等に基づき、委員会が実施に関する必要な事項を別に定める。

2 各部・館、各科及び各種委員会による点検及び評価の結果は、委員会が定める期日までに報告しなければならない。

3 委員会は、第三者評価の結果に基づき、広く周知を図ることができる方法により、その結果を学内外に公表する。

4 学長、各部・館の長、各科長及び各種委員会の長は、第三者評価の結果に基づき、改善を要するものについて、速やかにその改善に努めなければならない。

(事務)

第9条 委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、自己点検・評価に関する必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則 (平成18年9月14日公布)

1 この規程は、公布の日から施行する。

2 平成9年7月14日施行の「富山短期大学自己点検評価に関する委員会規程」は、廃止する。

附 則

この規程は、平成25年9月19日から施行する。

附 則 (平成26年7月10日公布)

この規程は、公布の日から施行する。

附 則 (平成27年3月6日公布)

この規程は、公布の日から施行する。

附 則 (平成27年7月9日公布)

この規程は、公布の日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	富山短期大学（経営情報学科）	申請レベル	応用基礎レベル(学部・学科等単位)
教育プログラム名	データ・AI実践力プログラム（経営情報学科）	申請年度	令和7年度

取組概要

データ・AI実践力プログラム

【プログラムの目的】

本プログラムはMDASHリテラシーレベルを基盤とし、数理・データサイエンス・AIの知識と技術の応用基礎レベルを学び、それを実社会の課題に適用して意思決定を行う実践的な能力を養成する。



【身につけられる能力】

- ・データドリブン思考をもとに最適な意思決定ができる
- ・生成AIを使ったデータ分析やプログラミングができる
- ・実社会の課題に対し、協調的に取り組むことができる

【開講されている科目の構成・修了要件】

プログラムは「データ科学実践」（2年次前期，2単位）で構成し、その単位取得を修了要件としている



図はGoogle Geminiで作成

※授業の様子は <https://www.toyama-c.ac.jp/news/003306.html> で公開